

改正

平成30年4月1日
 平成31年4月1日規程第51号
 令和2年4月1日規程第49号
 令和3年4月1日規程第42号

東洋大学大学院文学研究科規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。）第4条第5項に基づき、東洋大学大学院文学研究科（以下「文学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 文学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 文学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 文学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法等を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 文学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、文学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

専攻	免許状の種類及び教科		
	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	その他
哲学	公民	社会	—
インド哲学仏教学	公民	社会	
日本文学文化	国語	国語	
中国哲学	国語	国語	
英文学	英語	英語	
史学	地理歴史	社会	
教育学	地理歴史・公民	社会	
			小学校教諭専修免許状
国際文化コミュニケーション	英語	英語	—

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、文学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目の単位を修得し、東洋大学大学院（以下「本大学院」という。）の課

程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。
(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が文学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則 (平成30年規程第64号)

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、改正後の第3条及び第3条別表第2並びに第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則 (平成31年4月1日規程第51号)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。ただし、英語コミュニケーション専攻は、平成31年3月31日に当該専攻に在籍する者が当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続する。

附 則 (令和2年4月1日規程第49号)

- 1 この規程は、2020年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2019年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則 (令和3年4月1日規程第42号)

- 1 この規程は、2021年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2020年度以前の入学生については、第7条別表第5のうち小学校教諭専修免許状表について、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (第2条関係)

文学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について、高度な知識と教養を持ち、それを実際に活用して主体的に社会の課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを表現できる能力を習得させることを目的とする。
【博士後期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について高度の専門的知識と研究能力を持ち、それによって文化の向上に寄与するとともに社会の要請に創造的に応えることのできる人材を養成することを目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを研究論文として論理的に説明し社会に発信できる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】 (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、現実に直面する課題に対して問題解決のための様々な提案、アイデアを提起できるような人材の養成を目的とする。 (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

哲学理論を核心に据えながらも、医学を含む多面的思考を習得させ、各種境界領域においてさまざまな人的・知的資源を有効に組み立てることのできる能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

理論哲学と実践哲学との統合を目指し、深い哲学的知識に基づきながら、現実直面する課題解決のために様々なアイデアを提起し、かつ自らその実現に尽くすことができるような人材の養成を目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

テキスト研究・哲学史・解釈史研究を中軸に据え、伝統的な哲学の場に立って現実社会に対して提言をする専門的研究者に必要な能力を習得させることを目的とする。

文学研究科インド哲学仏教学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する豊かな学識を有し、それらを実社会で活用できる人材を養成することを目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に不可欠な諸言語の十分な能力を習得させるとともに、文献解読や調査等に必要となる社会的能力を習得させ、総合的な研究能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関して自立的で卓越した研究能力を有する人材を養成することを目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に係わる高度な専門的業務に従事しうる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科日本文学文化専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

各自の研究課題を軸として、広く日本文学文化分野を考究し、国際化時代に適応する高度教養人や高度職業人、とりわけ、研究実践に基づく卓越した能力を持つ国語科中等教育教員などの人材を養成することを目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる研究能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

専門知識を学術的に展開する研究者としての資質を成長させ、研究能力を生かした日本文学文化分野の研究職員及び国際社会に対応できるような高度な専門的業務に従事できる人材を養成することを目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる専門的かつ高度な研究能力とそれを社会に還元できる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科中国哲学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
中国哲学・中国文学・中国語を三位一体のものとして学び、古典を理解する教養を持つとともに、現代の中国をも理解する力を持ち、これを活用して幅広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。

(2)学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
原典読解力と中国学の学習で得た知見とに基づいて物事を合理的に考察し、それを論理的に表現できる能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
優れた原典読解力に基づいて、東アジア漢字文化圏の支柱となってきた中国の哲学および文学遺産の歴史的・今日的意義を明らかにして社会に寄与できる人材を養成することを目的とする。

(2)学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
独自の手法や視点に基づき、高度な知見と見識を駆使して、中国の哲学や文学の意義を明らかにすることで社会に寄与する研究論文を作成できる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科英文学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。

(2)学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
近代英語で書かれた文学テキストを読み、必要な文献を参照して、学術スタイルの論文・レポートを書くことができる能力を養成し、これを通して修了後の多方面でのキャリアのために十分な英語運用能力と英米文化についての基礎知識を身につけさせ、社会の多方面で応用できる専門的かつ実践的能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
前期課程で養われた能力を基盤として、英語の十分な運用能力と英米文化についての高度な知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。

(2)学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
英米文学・語学において博士号を取得できる水準の自立的な研究能力を養成する。このために文学テキスト・語学資料はもちろん、多方面にわたる研究書を読みこなし、これらの諸資料を適切に処理することによって、独創的な論文を書き、発表できる力を持つよう指導する。こうして得られた学識と英語力を活かして、研究職のみならず社会の多方面で活躍できる能力を習得させることを目的とする。

文学研究科史学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
歴史に対する深い知識と洞察力を持ち、学校教育、社会教育、ならびに情報産業等の幅広い分野で活躍する、高度の専門性を持つ人材を養成することを目的とする。

(2)学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
日本史学・東洋史学・西洋史学の3コースを置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域を深く探求する研究能力、およびそれを利用して社会に貢献する能力を習得させることを目的とする。また、博士後期課程進学のための研究能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1)どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
専門とする歴史学の領域において独創的な研究により学界に寄与し、歴史研究者として自立した

研究活動を営み、その能力を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的
日本史学・東洋史学・西洋史学に関わる多くの専門科目を置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域に深い学識を有し、新たな体系的知見を学界・社会に還元する能力を習得させることを目的とする。

文学研究科教育学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか
教育について高い見識を持ち、学校教育、社会教育で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する人材の養成を目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

教育諸問題について広い視野に立つことを可能にする深い学識、および教育関連諸分野における実践的かつ専門的能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

教育学・心理学を学んだ成果を生かし、学校教育や社会教育分野において指導的立場で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する指導的人材の養成を目的とする。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

教育諸問題について幅広い視野から研究する力量、および自立的な研究者に必要な研究能力、さらには、教育関連諸分野において指導的立場で活躍できる資質と能力を習得させることを目的とする。

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【博士前期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

英語を中心とした外国語の高度な運用についての豊富な知識と多様な分析手法を習得し、多言語多文化社会に対する深い理解力とグローバル社会への柔軟で実践的な適応力を身に付けた国際的な高度専門職業人及び教養人、言語コミュニケーション及び世界の諸地域の文化に関する専門的教育・研究の分野で活躍できる人材を養成する。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

英語を中心とした外国語による実践的で高度な言語運用能力によるコミュニケーションへの深い理解力と、多様な課題に対応する能力とを習得させるとともに、欧米やアジアの文化などへの深い理解力と教養、グローバルな多言語多文化社会の中で活躍できる哲学的な思考力、実践的な研究能力を習得させることを目的とする。

【博士後期課程】

(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

コミュニケーションや多様な文化に関する高度で専門的な知識及びグローバルな学術研究能力を身に付け、それらの能力を生かし得る国際関係機関や国内外の大学や研究所等の専門教育研究機関で活躍できる実践的な人材を養成する。

(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

グローバルな水準で通用しうる高度で専門的な研究能力を習得させ、国内外でのグローバル社会の発展や文化交流に貢献しうる実践的能力を習得させることを目的とする。

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針(第3条関係)

文学研究科哲学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

<p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 従来の研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 従来の研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。 (5) 学界や社会に寄与する論文を執筆する研究能力を身につけている。</p>
<p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成／教育内容・方法 「哲学研究指導」科目を中心に、「古代哲学、中世哲学、近世哲学、現代哲学、比較哲学、論理学、倫理学、実践哲学」等の科目を幅広く開講し、各自の専門領域の外国語テキストの解説、解釈を徹底するとともに、精神医学など多方面の知識を習得させる。また研究指導においては、各自のテーマに合わせて、そのテーマに必要な能力の養成を行う。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成／教育内容・方法 1年間の海外留学を推奨し、外国語テキストの一次文献、二次文献の読解力、作文力の習得を目指す。また、実践哲学を通しての実践領域における諸問題の哲学的解明を有効に展開しうる能力を養成し、各自の論文課題にしたがって科目を選択できる教育課程を整備する。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>
<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>本専攻の目的に即して、理論哲学と実践哲学のどちらを中心にするにしても、両方の統合に努力し、社会における諸問題に関して統合的哲学研究を通して解決する能力を有する人材の養成に努めるべく、それにふさわしい知識、能力、意欲のある人材を受け入れる。</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類</p>

選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1)問題の中心的な課題を見出すための知識のある者
- (2)解決の選択肢を複数個設定することのできる能力のある者
- (3)上記に必要な持続的な作業を支える意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1)問題の中心的な課題を見出し、さらに新たな問題そのものを発見していくための知識のある者
- (2)解決の選択肢を複数個設定し、手続き的な優先順位を決めることのできる能力のある者
- (3)上記に必要な持続的な作業を発展的に支える意欲のある者

文学研究科インド哲学仏教学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1)インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する専門知識を身につけている。
- (2)インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象を理解するのに必要な言語能力を修得し、自らの目的意識に沿って、それらの言語で書かれた資料から必要な情報を集め、整理する能力を身につけている。
- (3)インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景に、独自の視点に立って論理的な論述を行う能力、また、論理的で説得力に富むプレゼンテーションを行う能力を身につけている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1)インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する高度な専門知識と、当該分野を研究するための高度な言語能力を身につけている。
- (2)インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景としつつ、独自の視点から新たな問題を見出し、自ら収集した種々の資料に基づいてそれを論理的に解明する能力を身につけている。
- (3)統一されたテーマのもと、豊富な内容をしっかりとした構成によって論理的に論述する能力、国内外の専門的な学会において、自らの研究内容について論理的にプレゼンテーションをする能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1)教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、3領域から構成され、インド思想・文化研究には「インド哲学研究」、仏教思想・文化研究には「インド仏教研究」と「東アジア仏教研究」を開講し、各科目とも講義で研究課題の概説をし、演習では主に原典読解を指導して、当該分野における研究課題と方法の基本を教授する。研究指導はおもに主指導教員が修士論文執筆予定者に個別に論文執筆の具体的な指導をする。

(2)成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1)教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目はインド思想・文化研究および仏教思想・文化研究のために各々「特殊研究」を開講し、各科目とも講義で高度な研究課題を提示し、演習では研究動向の指導と主に原典解説を指導して、博士論文執筆予定者の資料研究を教授する。研究指導はおもに主旨導教員が個別に論文執筆ならびに学会発表の具体的な指導をする。また、研究分野・内容によって海外の研究機関への留学も薦める。

(2)成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)当該分野に関して基本的で広汎な知識のある者

(2)誠実で自らを律しながら研究に取り組み、研究資料を十分に読解し、その成果を体系的に表現できる能力のある者

(3)研究対象に主体的に真摯に取り組み、必要に応じて協働で研究するなどの意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)当該分野に関する広汎かつ高度な知識と研究動向についての知識のある者

(2)研究領域に関わる語学能力と独創的研究に耐えうる能力のある者

(3)自立的に研究を進め、研究者としての社会的倫理性を高める意欲のある者

文学研究科日本文学文化専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

(1)日本文学文化に関わる基本的な知識および専門とする領域に関わる専門的知識を身につけている。

(2)専門分野の研究方法に基づき、テーマを設定して研究を遂行し、それを論理的に分析・討議することができる。

(3)日本文学文化研究に積極的に寄与しうる修士学位論文を作成する能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

(1)日本文学文化に関わる広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知

識を身につけている。

(2)独自の研究課題に基づいて研究計画を立て、独創性に富む新たな知見を導く論理的な分析力と研究遂行力を身につけている。

(3)新たな知見を公表し学界・社会に還元する能力を身につけている。

(4)広く学界に寄与しうる博士学位論文を作成する高度な能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語を中核に、講義科目と演習科目を有機的に連携させて配列するとともに、文化間融合の観点から「隣接領域科目」を、日本文学文化を相対化、比較対照する観点から「比較文学文化科目」を、それぞれ講義科目として設置し、各自が専門的かつ横断的に選択履修できるよう編成する。いずれも専門分野を幅広い視点から探究できるような学問領域のエッセンスとテーマを掲げて教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に設定、追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2)成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、各自が専門分野をより深く探求できるよう、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語についての講義科目を配列し、専門領域の現在的課題を教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に定め追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2)成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1) 日本語・日本文学の基礎知識のある者

(2) 文学の基礎的読解力、外国語・漢文の基礎的能力のある者

(3) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 高度な専門知識と論理性を持つ修士論文を執筆できる能力を有している者
- (2) 日本語・日本文学の専門知識のある者
- (3) 外国語の基礎的能力のある者
- (4) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

文学研究科中国哲学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 中国の哲学や文学について専門的な知識を有し、正確な原典読解力を身につけている。
- (2) 漢文（中国文）で著された中国古典および近現代作品の原典に基づいて、自ら考え設定した課題を考察し、表現する力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 中国の哲学や文学作品読解に関して、独自の手法や視点を身につけている。
- (2) 中国の哲学や文学作品について深い学識を有するとともに、主体的な問題意識に基づいて研究論文を作成する力を身につけている。
- (3) 高度な知見と見識の反映する研究成果を世に問い、学界に寄与する高度な水準の研究能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学・中国語学にわたる演習科目や特論科目を配置し、原典の読解力を深めるとともに、文献の扱いに習熟するために、専門とする領域に上記三分野の科目を取組んで、重層的な中国理解を目指す。研究指導は、「研究指導」科目を設置し、研究方法の確立を目指して、論文作成の手順を指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学に関わる「特殊研究」を配置し、文献の批判的検討と分析を行いつつ、優れた文献読解能力を涵養するとともに、独自の研究方法構築への方途を教授する。研究指導は、「特殊研究」と密接に結びついた「研究指導」科目によって、独自の手法や視点に基づいた研究論文の作成方法を指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する基礎的知識のある者
- (2) 文献の基本的読解能力をもち、文献を扱う基本的な訓練を経ている者
- (3) 中国哲学・文学研究に、専門的に取り組もうとする意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する高度な知識のある者
- (2) 優れた文献読解能力をもち、文献の扱いに習熟した能力のある者
- (3) 中国哲学・文学研究を深化させ、研究成果を研究論文の作成を通して発表してゆく意欲のある者

文学研究科英文学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。
- (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを独自の研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。
- (3) 学術的水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。
- (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを分析する独創性に富む問題意識や研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。
- (3) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は英文学・米文学・英語学の三分野に対して均等に演習と講義科目を配列し、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを教授する。研究指導は受講生個々人の要望を聞きながら受講生との対話を重視する形で、研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を指導する。

<p>(2)成績の評価</p> <p>成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1)教育課程の編成／教育内容・方法</p> <p>ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目においては、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを分析、検討する。研究指導においては、全国的あるいは国際的な学会での発表を念頭に、受講生が追究する研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を検討する。ひいては博士論文の執筆につなげることを目途に、受講生との対話を重視し、個々人の要望を聞きながら、研究指導を進める。</p> <p>(2)成績の評価</p> <p>成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p>

<p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 基本的な英語運用能力と英米文化に関する知識のある者</p> <p>(2) 自己啓発に熱意をもって取り組む能力のある者</p> <p>(3) 誠実に自らを律しつつ、研究に取り組む意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 博士前期課程修了程度の英語運用能力と英米文化に関する知識のある者</p> <p>(2) 創造的研究に耐えうる能力のある者</p> <p>(3) 研究者として社会的倫理性を高めようとする意欲のある者</p>

文学研究科史学専攻

<p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <p>本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 歴史に係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。</p> <p>(2) 歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。</p> <p>(3) 新たな知見を社会に還元する能力を身につけている。</p> <p>(4) 学界の水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に</p>

対して、博士の学位を授与する。

- (1) 歴史に関する広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識を身につけている。
- (2) 独創性に富む問題意識や、歴史学的な研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。
- (3) 新たな知見を学界・社会に還元する能力を身につけている。
- (4) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は日本史・東洋史・西洋史の3コースから構成され、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について総合的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を設定し、歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について歴史的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を体系的に設定し、歴史学的な研究方法に基づいて、学界に寄与できる優れた研究成果が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 歴史について基本的な知識のある者
- (2) 史料の解読能力、総合的な思考力・判断能力があり、学修成果を正確に伝えるコミュニケーション能力のある者
- (3) 歴史研究の基礎となる専門的な知識や歴史学的な研究方法を、主体的に学ぶ意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類

選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 歴史についての基本的な知識、専門とする領域についての専門的な知識のある者
- (2) 歴史学的な研究方法を修得し、優れた研究能力があり、新たな知見を学界・社会に伝えるコミュニケーション能力のある者
- (3) 歴史について広い視野と深い学識があり、研究に主体的に取り組む意欲のある者

文学研究科教育学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 先行研究の意義、目的、方法を理解し、教育学研究に必要な知識・技能を身につけている。
- (2) 自ら設定したテーマにもとづいて研究計画を立て、新たな知見を付与する研究を遂行し、論文にまとめることができる。
- (3) 広い知識と洞察力、倫理観を備え、教育学研究を通して社会に貢献できる資質や能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 当該分野の研究史に関する深い理解とそれに依拠した研究方法論を身につけている。
- (2) 独自の研究課題にもとづいて研究計画を立て、独創的な知見を付与する研究を遂行し、博士学位論文にまとめることができる。
- (3) 広汎な知識と洞察力、高い倫理観を備え、教育学研究を通して社会に発信し、貢献できる資質や能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生自らが社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識・研究関心、職場や地域で抱える課題に即して、改善や解決に資する実践的な研究を行えるよう配慮する。

また、教育職員としての高い専門性をめざす者が所定の単位を修得した場合、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）、特別支援学校教諭、小学校教諭等の教育職員専修免許状を取得することができるよう、免許取得に必要な科目を設置する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生が独創的で社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。また研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識や研究関心、職場や地域で抱える課題、さらには世界的課題に即して、問題解決や改善、社会的提言に資する、高度な研究を行えるよう配慮する。

(2)成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。

③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての一般的知識のある者。

(2)文献読解や論文作成、調査など研究に必要な基礎的能力のある者。

(3)教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して意欲を持つ者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての広範な知識のある者。

(2)文献読解や論文作成、調査など研究に必要な能力のある者。

(3)教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して高い倫理観と志を持つ者。

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身に付けたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

(1)英語を中心とした多言語領域におけるコミュニケーションについての専門的な知識と運用能力を身に付けている。

(2)欧米や日本の歴史や文学・文化を中心とする、多文化に対する専門的な知識と理解力、異文化と自文化に対する探求心、柔軟で哲学的な思考力を身に付けている。

(3)教育機関や企業・組織などグローバル社会の現場において有効な課題対応能力を身に付けている。

(4)自らの研究計画に基づいて、独創的で社会に貢献する研究を持続しうる能力を身に付けている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身に付けたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

(1)英語を中心とする多言語に対する高度で専門的な知識を身に付けている。

(2)グローバルに広がる多言語多文化社会の歴史や文学・文化、社会問題などに対する高度で専

門的な知識と深い考察力を身に付けている。

(3) 翻訳や通訳など言語コミュニケーションやグローバルな文化研究を行う教育・研究機関で活躍しうる高度な言語運用能力を身に付けている。

(4) 言語研究や文学・文化研究に必要な優れた分析能力を身に付けている。

(5) 国内外のグローバルな研究・教育機関等で働くうえで必要な研究教育能力、グローバル社会における文化交流や国際的な共同研究に貢献しうる高度な実践力を身に付けている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション、国際文化の2領域にわたって演習科目及び講義科目を効率的に配置する。言語コミュニケーション領域では、言語学やコミュニケーション学など英語を中心として多言語に対する運用能力やコミュニケーションへの理解力、課題適応力、あるいは英語教育や日本語教育など語学に関する専門的な教育・研究能力を養う。また、国際文化領域では、英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏や日本、アジアなどの文学や歴史、多様な文化事象を学び、多文化に対する知識と理解力を身に付け、複雑化するグローバル社会の文化や歴史、社会、科学技術等に関する課題を考察し解決する科学的・合理的な能力を養成する。そして本専攻では、両領域からの履修を必須とすることで言語コミュニケーションと国際文化の双方の領域の学問を総合的かつ体系的に学ぶ。そのうえで、各自が専門的な視点から学修を深められるように教授する。研究指導は個々人の研究課題に沿った個別指導を中核として、各課題における研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。

③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成／教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション及び国際文化の領域にわたって配置し、各自が専門領域における研究を深め、高度で専門的な実践力を身に付けられるように最新の研究課題や研究理論、研究方法を教授する。研究指導は、大学院生個々の研究テーマに沿った個別指導を中核として、博士学位を取得すべく、個々の研究テーマにおける高度で専門的な研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。

② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。

③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を有し、かつ一層の向上を目指す意欲のある者。

(2)多言語多文化に対する基礎的な知識を有し、かつ一層の探究心を有する者。

(3)国際社会の中で活躍するための積極的で柔軟な適応能力を有する者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

(1)読解力、会話力、表現力、思考力などにおいて、外国語による高度な運用能力を有する者。

(2)多言語多文化に対する専門的知識と理解力を有する者。

(3)国際社会の中で活躍しうる自律的な研究能力と実践力を有する者。

別表第3 教育課程（第4条関係）

文学研究科哲学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	哲学特論A	講義	1～2	2	
	選択	哲学特論B	講義	1～2	2	
	選択	哲学演習A	演習	1～2	2	
	選択	哲学演習B	演習	1～2	2	
	選択	古代中世哲学研究A	講義	1～2	2	
	選択	古代中世哲学研究B	講義	1～2	2	
	選択	古代中世哲学演習A	演習	1～2	2	
	選択	古代中世哲学演習B	演習	1～2	2	
	選択	近世哲学研究A	講義	1～2	2	
	選択	近世哲学研究B	講義	1～2	2	
	選択	近世哲学演習I A	演習	1～2	2	
	選択	近世哲学演習I B	演習	1～2	2	
	選択	近世哲学演習II A	演習	1～2	2	
	選択	近世哲学演習II B	演習	1～2	2	
	選択	現代哲学研究A	講義	1～2	2	
	選択	現代哲学研究B	講義	1～2	2	
	選択	現代哲学演習I A	演習	1～2	2	
	選択	現代哲学演習I B	演習	1～2	2	
	選択	現代哲学演習II A	演習	1～2	2	
	選択	現代哲学演習II B	演習	1～2	2	
	選択	論理学特論A	講義	1～2	2	
	選択	論理学特論B	講義	1～2	2	
	選択	倫理学特論A	講義	1～2	2	
	選択	倫理学特論B	講義	1～2	2	
	選択	日本哲学特論A	講義	1～2	2	
	選択	日本哲学特論B	講義	1～2	2	
	選択	日本哲学演習A	演習	1～2	2	
	選択	日本哲学演習B	演習	1～2	2	
	選択	比較哲学特論A	講義	1～2	2	
	選択	比較哲学特論B	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究A	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究B	講義	1～2	2	

	選択	現代哲学特殊演習	演習	1～2	2	
	選択	実践哲学特論A	講義	1～2	2	
	選択	実践哲学特論B	講義	1～2	2	

文学研究科哲学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	哲学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅣA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅣB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅤA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅤB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅥA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅥB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅦA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅦB		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅧA		1～2		
	選択	哲学研究指導ⅧB		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
 - 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
 - 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
 - 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
- また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科哲学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	哲学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	

	選択	哲学特殊研究ⅣA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅣB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅤA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅤB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅥA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅥB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅦA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅦB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅧA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅧB	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅨA	講義	1～3	2	
	選択	哲学特殊研究ⅨB	講義	1～3	2	

文学研究科哲学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演 習の別	配当学年	単位数	備考
	選択	哲学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅢB		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅣA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅣB		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅤA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅤB		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅥA		1～3		
	選択	哲学研究指導ⅥB		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 2 指導教授は、主教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演 習の別	配当学 年	単位数	備考
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅠA	講義	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅠB	演習	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅡA	講義	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅡB	演習	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅢA	講義	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅢB	演習	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅣA	講義	1～2	2	

インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅣB	演習	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅤA	講義	1～2	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学研究ⅤB	演習	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅠA	講義	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅠB	演習	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅡA	講義	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅡB	演習	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅢA	講義	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅢB	演習	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅣA	講義	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅣB	演習	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅤA	講義	1～2	2	
インド仏教領域	選択	インド仏教研究ⅤB	演習	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅠA	講義	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅠB	演習	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅡA	講義	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅡB	演習	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅢA	講義	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅢB	演習	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅣA	講義	1～2	2	
中国・日本仏教領域	選択	東アジア仏教研究ⅣB	演習	1～2	2	
	選択	インド哲学仏教学特殊演習A	演習	1～2	2	
	選択	インド哲学仏教学特殊演習B	演習	1～2	2	

文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位数	備考
	選択	インド哲学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	インド哲学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	インド哲学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	インド哲学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	インド哲学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	インド哲学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅢA		1～2		

	選択	仏教学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅣA		1～2		
	選択	仏教学研究指導ⅣB		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 主指導教授が担当する「講義」および「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び、単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
- 履修方法3以外の「講義」および「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅠB	演習	1～3	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅡB	演習	1～3	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
インド哲学領域	選択	インド哲学特殊研究ⅢB	演習	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅠB	演習	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅡB	演習	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅢB	演習	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅣA	講義	1～3	2	
仏教学領域	選択	仏教学特殊研究ⅣB	演習	1～3	2	

文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
----	-------------	-----	-------------	------	-----	----

	選択	インド哲学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	インド哲学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	インド哲学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	インド哲学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	インド哲学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	インド哲学研究指導ⅢB		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅢB		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅣA		1～3		
	選択	仏教学研究指導ⅣB		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること
- 2 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科日本文学文化専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位 数	備考
	選択	研究基礎論A	講義	1～2	2	
	選択	研究基礎論B	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅣA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅣB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅤA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅤB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅥA	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化特論ⅥB	講義	1～2	2	
	選択	日本語学特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	日本語学特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	日本語学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	日本語学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅠB	演習	1～2	2	

	選択	日本文学文化演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅢA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅢB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅣA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅣB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅤA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅤB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅥA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅥB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅦA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅦB	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅧA	演習	1～2	2	
	選択	日本文学文化演習ⅧB	演習	1～2	2	
	選択	日本語学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	日本語学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	日本語学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	日本語学演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	日本美術史A	講義	1～2	2	
	選択	日本美術史B	講義	1～2	2	
	選択	比較文学A	講義	1～2	2	
	選択	比較文学B	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論A	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論B	講義	1～2	2	

文学研究科日本文学文化専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位 数	備考
	選択	日本文学文化研究指導ⅠA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅠB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅡA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅡB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅢA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅢB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅣA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅣB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅤA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅤB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅥA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅥB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅦA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅦB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅧA		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅧB		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導ⅨA		1～2		

	選択	日本文学文化研究指導IX B		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導X A		1～2		
	選択	日本文学文化研究指導X B		1～2		
	選択	日本語学研究指導I A		1～2		
	選択	日本語学研究指導I B		1～2		
	選択	日本語学研究指導II A		1～2		
	選択	日本語学研究指導II B		1～2		
	選択	日本語学研究指導III A		1～2		
	選択	日本語学研究指導III B		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
- 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科日本文学文化専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	日本文学文化特殊研究I A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究I B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究II A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究II B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究III A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究III B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究IV A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究IV B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究V A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究V B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VI A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VI B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VII A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VII B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VIII A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究VIII B	講義	1～3	2	

	選択	日本文学文化特殊研究IX A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究IX B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X I A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X I B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X II A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X II B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X III A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X III B	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X IV A	講義	1～3	2	
	選択	日本文学文化特殊研究X IV B	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 I A	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 I B	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 II A	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 II B	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 III A	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 III B	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 IV A	講義	1～3	2	
	選択	日本語学特殊研究 IV B	講義	1～3	2	

文学研究科日本文学文化専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	日本文学文化研究指導 I A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 I B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 II A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 II B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 III A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 III B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 IV A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 IV B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 V A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 V B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VI A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VI B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VII A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VII B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VIII A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 VIII B		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 IX A		1～3		
	選択	日本文学文化研究指導 IX B		1～3		
	選択	日本語学研究指導 I A		1～3		
	選択	日本語学研究指導 I B		1～3		
	選択	日本語学研究指導 II A		1～3		
	選択	日本語学研究指導 II B		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 2 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科中国哲学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演 習の別	配当学 年	単位 数	備考
	選択	中国哲学特論Ⅰ	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅢA	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学演習ⅢB	演習	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	中国哲学研究ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	中国文学特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	中国文学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	中国文学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	中国文学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	中国文学演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	中国語学研究ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	中国語学研究ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	中国語学研究ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	中国語学研究ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	哲学特論A	講義	1～2	2	
	選択	哲学特論B	講義	1～2	2	

	選択	比較哲学特論 A	講義	1～2	2	
	選択	比較哲学特論 B	講義	1～2	2	
	選択	仏教学特論 A	講義	1～2	2	
	選択	仏教学特論 B	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論 A	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論 B	講義	1～2	2	
	選択	文献研究（東洋） A	講義	1～2	2	
	選択	文献研究（東洋） B	講義	1～2	2	

文学研究科中国哲学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演 習の別	配当学 年	単位 数	備考
	選択	中国哲学研究指導 I A		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 I B		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 II A		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 II B		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 III A		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 III B		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 IV A		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 IV B		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 V A		1～2		
	選択	中国哲学研究指導 V B		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科中国哲学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演 習の別	配当学 年	単位 数	備考
	選択	中国哲学特殊研究 I A	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究 I B	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究 II A	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究 II B	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究 III A	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究 III B	講義	1～3	2	

	選択	中国哲学特殊研究Ⅳ A	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究Ⅳ B	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究Ⅴ A	講義	1～3	2	
	選択	中国哲学特殊研究Ⅴ B	講義	1～3	2	

文学研究科中国哲学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	中国哲学研究指導Ⅰ A		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅰ B		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅱ A		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅱ B		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅲ A		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅲ B		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅳ A		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅳ B		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅴ A		1～3		
	選択	中国哲学研究指導Ⅴ B		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 2 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科英文学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	英文学演習Ⅰ A	演習	1～2	2	
	選択	英文学演習Ⅰ B	演習	1～2	2	
	選択	英文学演習Ⅱ A	演習	1～2	2	
	選択	英文学演習Ⅱ B	演習	1～2	2	
	選択	米文学演習 A	演習	1～2	2	
	選択	米文学演習 B	演習	1～2	2	
	選択	比較文学演習 A	演習	1～2	2	
	選択	比較文学演習 B	演習	1～2	2	
	選択	英語学演習 A	演習	1～2	2	
	選択	英語学演習 B	演習	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅰ A	講義	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅰ B	講義	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅱ A	講義	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅱ B	講義	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅲ A	講義	1～2	2	
	選択	英文学特論Ⅲ B	講義	1～2	2	
	選択	米文学特論 A	講義	1～2	2	

	選択	米文学特論 B	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 I A	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 I B	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 II A	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 II B	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 III A	講義	1～2	2	
	選択	英語学特論 III B	講義	1～2	2	
	選択	英文学思想 A	講義	1～2	2	
	選択	英文学思想 B	講義	1～2	2	
	選択	米文学思想 A	講義	1～2	2	
	選択	米文学思想 B	講義	1～2	2	

文学研究科英文学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	英文学研究指導 I A		1～2		
	選択	英文学研究指導 I B		1～2		
	選択	英文学研究指導 II A		1～2		
	選択	英文学研究指導 II B		1～2		
	選択	米文学研究指導 I A		1～2		
	選択	米文学研究指導 I B		1～2		
	選択	米文学研究指導 II A		1～2		
	選択	米文学研究指導 II B		1～2		
	選択	比較文学研究指導 A		1～2		
	選択	比較文学研究指導 B		1～2		
	選択	英語学研究指導 I A		1～2		
	選択	英語学研究指導 I B		1～2		
	選択	英語学研究指導 II A		1～2		
	選択	英語学研究指導 II B		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
- 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科英文学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	英文学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	英文学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	英文学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	英文学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	英文学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
	選択	英文学特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	
	選択	米文学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	米文学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	米文学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	米文学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	比較文学特殊研究A	講義	1～3	2	
	選択	比較文学特殊研究B	講義	1～3	2	
	選択	英語学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	英語学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	英語学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	英語学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	

文学研究科英文学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	英文学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	英文学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	英文学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	英文学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	米文学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	米文学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	米文学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	米文学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	比較文学研究指導A		1～3		
	選択	比較文学研究指導B		1～3		
	選択	英語学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	英語学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	英語学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	英語学研究指導ⅡB		1～3		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科史学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・	科目名	講義・演習	配当学年	単位数	備考
----	-----	-----	-------	------	-----	----

	選択の別		の別			
	選択	日本史学特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅣA	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅣB	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅤA	講義	1～2	2	
	選択	日本史学特論ⅤB	講義	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅢA	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅢB	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅣA	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅣB	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅤA	演習	1～2	2	
	選択	日本史学演習ⅤB	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅡB	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅢA	演習	1～2	2	
	選択	東洋史学演習ⅢB	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅠA	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅠB	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅡA	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅡB	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅢA	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅢB	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅣA	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学特論ⅣB	講義	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅠA	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅠB	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅡA	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅡB	演習	1～2	2	

	選択	西洋史学演習ⅢA	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅢB	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅣA	演習	1～2	2	
	選択	西洋史学演習ⅣB	演習	1～2	2	
	選択	考古学特論A	講義	1～2	2	
	選択	考古学特論B	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(日本)A	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(日本)B	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(東洋)A	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(東洋)B	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(西洋)A	講義	1～2	2	
	選択	文献研究(西洋)B	講義	1～2	2	
	選択	史料管理学	講義	1～2	4	

文学研究科史学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	日本史学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅣA		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅣB		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅤA		1～2		
	選択	日本史学研究指導ⅤB		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	東洋史学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅣA		1～2		
	選択	西洋史学研究指導ⅣB		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。

- 3 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。
修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
- 4 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
- また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科史学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	日本史学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅣA	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅣB	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅤA	講義	1～3	2	
	選択	日本史学特殊研究ⅤB	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
	選択	東洋史学特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅣA	講義	1～3	2	
	選択	西洋史学特殊研究ⅣB	講義	1～3	2	

文学研究科史学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	日本史学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅢB		1～3		

	選択	日本史学研究指導ⅣA		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅣB		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅤA		1～3		
	選択	日本史学研究指導ⅤB		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	東洋史学研究指導ⅢB		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅠA		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅠB		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅡA		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅡB		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅢA		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅢB		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅣA		1～3		
	選択	西洋史学研究指導ⅣB		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 2 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科教育学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	学校教育研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	学校教育研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	学校教育研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	学校教育研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	教育学説研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	教育学説研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	教育学説研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	教育学説研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	教育学説史研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	教育学説史研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	比較教育史演習A	演習	1～2	2	
	選択	比較教育史演習B	演習	1～2	2	
	選択	特別支援教育研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	特別支援教育研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	特別支援教育研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	特別支援教育研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	障害児臨床心理研究特殊講義A	講義	1～2	2	

	選択	障害児臨床心理研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	学習指導論特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	学習指導論特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	学習指導論研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	学習指導論研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	心理査定法特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	心理査定法特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	臨床教育心理学特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	臨床教育心理学特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	臨床教育心理学研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	臨床教育心理学研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	臨床教育心理治療法特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	カウンセリング実習	演習	1～2	2	
	選択	心理発達学特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	心理発達学特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	障害児心理特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	障害児心理特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	障害児心理研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	障害児心理研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	学習心理学特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	学習心理学特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	生徒指導・進路指導特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	生涯学習の研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	生涯学習の研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	生涯学習計画の研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	生涯学習計画の研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	教育社会学研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	教育社会学研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	女性学の研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	女性学の研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	生活文化研究特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	生活文化研究特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	生活文化研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	生活文化研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	教育行財政学特殊講義A	講義	1～2	2	
	選択	教育行財政学特殊講義B	講義	1～2	2	
	選択	教育行財政学研究演習A	演習	1～2	2	
	選択	教育行財政学研究演習B	演習	1～2	2	
	選択	授業分析論特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	環境教育論特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	教育文化論特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	比較教育史特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	教育心理学特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	教育相談学特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	国語科教育研究演習	演習	1～2	2	

	選択	社会科教育研究演習	演習	1～2	2	
	選択	算数・数学科教育特殊講義	講義	1～2	2	
	選択	算数・数学科教育研究演習	演習	1～2	2	
	選択	理科教育研究演習	演習	1～2	2	
	選択	音楽科教育研究演習	演習	1～2	2	
	選択	図画工作・美術科教育研究演習	演習	1～2	2	

文学研究科教育学専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	教育学研究指導ⅠA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅠB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅡA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅡB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅢA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅢB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅣA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅣB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅤA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅤB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅥA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅥB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅦA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅦB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅧA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅧB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅨA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅨB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅠA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅠB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅡA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅡB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅢA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅢB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅣA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅣB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅤA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅤB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅥA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅥB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅦA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅦB		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅧA		1～2		
	選択	教育学研究指導ⅩⅧB		1～2		

	選択	教育学研究指導XIX A		1～2		
	選択	教育学研究指導XIX B		1～2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 主指導教授が担当する「演習」および「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
- 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科教育学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	教育学特殊研究I A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究I B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究II A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究II B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究III A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究III B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究IV A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究IV B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究V A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究V B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VI A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VI B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VII A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VII B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VIII A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究VIII B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究IX A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究IX B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X I A	講義	1～3	2	

	選択	教育学特殊研究X I B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X II A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X II B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X III A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X III B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X IV A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X IV B	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X V A	講義	1～3	2	
	選択	教育学特殊研究X V B	講義	1～3	2	

文学研究科教育学専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の別	科目名	講義・演習 の別	配当学年	単位数	備考
	選択	教育学研究指導 I A		1～3		
	選択	教育学研究指導 I B		1～3		
	選択	教育学研究指導 II A		1～3		
	選択	教育学研究指導 II B		1～3		
	選択	教育学研究指導 III A		1～3		
	選択	教育学研究指導 III B		1～3		
	選択	教育学研究指導 IV A		1～3		
	選択	教育学研究指導 IV B		1～3		
	選択	教育学研究指導 V A		1～3		
	選択	教育学研究指導 V B		1～3		
	選択	教育学研究指導 VI A		1～3		
	選択	教育学研究指導 VI B		1～3		
	選択	教育学研究指導 VII A		1～3		
	選択	教育学研究指導 VII B		1～3		
	選択	教育学研究指導 VIII A		1～3		
	選択	教育学研究指導 VIII B		1～3		
	選択	教育学研究指導 IX A		1～3		
	選択	教育学研究指導 IX B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X I A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X I B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X II A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X II B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X III A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X III B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X IV A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X IV B		1～3		
	選択	教育学研究指導 X V A		1～3		
	選択	教育学研究指導 X V B		1～3		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断

により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修することができる。

3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士前期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位数	備考
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 I A	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 I B	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 II A	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 II B	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 III A	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 III B	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 IV A	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 IV B	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 V A	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション演習 V B	演習	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 I A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 I B	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 II A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 II B	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 III A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 III B	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 IV A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 IV B	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 V A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究 V B	講義	1～2	2	

シオン領域科目		B				
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究VI A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究VI B	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究VII A	講義	1～2	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション研究VII B	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習I A	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習I B	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習II A	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習II B	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習III A	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習III B	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習IV A	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化演習IV B	演習	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究I A	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究I B	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究II A	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究II B	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究III A	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究III B	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究IV A	講義	1～2	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化研究IV B	講義	1～2	2	

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士前期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位数	備考
	選択	言語コミュニケーション研究指導I A		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導I B		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導II A		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導II B		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導III A		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導III B		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導IV A		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導IV B		1～2		
	選択	言語コミュニケーション研究指導V A		1～2		

	選択	言語コミュニケーション研究指導 V B		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 I A		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 I B		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 II A		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 II B		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 III A		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 III B		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 IV A		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 IV B		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 V A		1 ~ 2		
	選択	国際文化研究指導 V B		1 ~ 2		

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授 1 名・副指導教授 1 名の計 2 名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が 2 名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に 3 科目（主指導教授 1 名・副指導教授 2 名）を上限として、履修・修得することができる。
- 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3 回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
- 履修方法 3 以外の「演習」または「講義」は、在学中 1 回のみ履修・単位修得することができる。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第 8 条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は 1 回目のみ修了要件として扱い、2 回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第 10 条の 2 に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10 単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士後期課程 授業科目

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位数	備考
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 I A	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 I B	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 II A	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 II B	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 III A	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究 III B	講義	1 ~ 3	2	
言語コミュニケーション	選択	言語コミュニケーション特殊研	講義	1 ~ 3	2	

シオン領域科目		究ⅣA				
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究ⅣB	講義	1～3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究ⅤA	講義	1～3	2	
言語コミュニケーション領域科目	選択	言語コミュニケーション特殊研究ⅤB	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅠA	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅠB	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅡA	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅡB	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅢA	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅢB	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅣA	講義	1～3	2	
国際文化領域科目	選択	国際文化特殊研究ⅣB	講義	1～3	2	

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士後期課程 研究指導

区分	必修・ 選択の 別	科目名	講義・演習 の別	配当学 年	単位数	備考
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅠA		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅠB		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅡA		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅡB		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅢA		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅢB		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅣA		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅣB		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅤA		1～3		
	選択	言語コミュニケーション研究指導ⅤB		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅠA		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅠB		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅡA		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅡB		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅢA		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅢB		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅣA		1～3		
	選択	国際文化研究指導ⅣB		1～3		

履修方法

- 1 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 2 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
- 3 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）

博士前期課程

専攻	単位数等
文学研究科哲学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科インド哲学仏教学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。 (3)「講義」及び「演習」を、在学中それぞれ2単位以上履修・単位修得すること。
文学研究科日本文学文化専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科中国哲学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科英文学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科史学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。 (3)下記の①②を満たすこと。 ①日本史学コースの者は「日本史学特論ⅠA・B」～「日本史学特論ⅤA・B」の10科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。 東洋史学コースの者は「東洋史学特論ⅠA・B」～「東洋史学特論ⅢA・B」の6科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。 西洋史学コースの者は「西洋史学特論ⅠA・B」～「西洋史学特論ⅣA・B」の8科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。 ②日本史学コースの者は「日本史学演習ⅠA・B」～「日本史学演習ⅤA・B」の10科目の中から、8単位以上を修得すること。 東洋史学コースの者は「東洋史学演習ⅠA・B」～「東洋史学演習ⅢA・B」の6科目の中から、8単位以上を修得すること。 西洋史学コースの者は「西洋史学演習ⅠA・B」～「西洋史学演習ⅣA・B」の8科目の中から、8単位以上を修得すること。
文学研究科教育学専攻	(1)修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2)主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

	と。
文学研究科国際文化コミュニケーション専攻	(1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。 (2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。 (3) 言語コミュニケーション領域科目および国際文化領域科目から、それぞれ2科目4単位以上の計4科目8単位以上を修得すること。

博士後期課程

専攻	単位数等
文学研究科哲学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科インド哲学仏教学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科日本文学文化専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科中国哲学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科英文学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科史学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科教育学専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
文学研究科国際文化コミュニケーション専攻	主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

別表第5 教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数（第7条関係）

文学研究科哲学専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（公民）・中学校教諭専修免許状（社会）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	哲学演習A	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		哲学演習B	2	
		古代中世哲学演習A	2	
		古代中世哲学演習B	2	
		近世哲学研究A	2	
		近世哲学研究B	2	
		近世哲学演習ⅠA	2	
		近世哲学演習ⅠB	2	
		近世哲学演習ⅡA	2	
		近世哲学演習ⅡB	2	
		現代哲学研究A	2	
		現代哲学研究B	2	
		現代哲学演習ⅠA	2	
		現代哲学演習ⅠB	2	
		現代哲学演習ⅡA	2	
		現代哲学演習ⅡB	2	
		論理学特論A	2	
		論理学特論B	2	
倫理学特論A	2			
倫理学特論B	2			
合計	24単位	—	—	

文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（公民）・中学校教諭専修免許状（社会）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	インド哲学研究ⅠA	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		インド哲学研究ⅠB	2	
		インド哲学研究ⅡA	2	
		インド哲学研究ⅡB	2	
		インド哲学研究ⅣA	2	
		インド哲学研究ⅣB	2	
		インド仏教研究ⅠA	2	
		インド仏教研究ⅠB	2	
		インド仏教研究ⅡA	2	
		インド仏教研究ⅡB	2	
		インド仏教研究ⅢA	2	
		インド仏教研究ⅢB	2	
		インド仏教研究ⅣA	2	
		インド仏教研究ⅣB	2	
		インド仏教研究ⅤA	2	
		インド仏教研究ⅤB	2	
		東アジア仏教研究ⅠA	2	
		東アジア仏教研究ⅠB	2	
		東アジア仏教研究ⅡA	2	
		東アジア仏教研究ⅡB	2	
東アジア仏教研究ⅣA	2			
東アジア仏教研究ⅣB	2			
合計	24単位	—	—	

文学研究科日本文学文化専攻 博士前期課程
 高等学校教諭専修免許状（国語）・中学校教諭専修免許状（国語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	日本文学文化特論ⅡA	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		日本文学文化特論ⅡB	2	
		日本文学文化特論ⅣA	2	
		日本文学文化特論ⅣB	2	
		日本文学文化演習ⅠA	2	
		日本文学文化演習ⅠB	2	
		日本文学文化演習ⅡA	2	
		日本文学文化演習ⅡB	2	
		日本文学文化演習ⅣA	2	
		日本文学文化演習ⅣB	2	
		日本文学文化演習ⅤA	2	
		日本文学文化演習ⅤB	2	
		日本文学文化演習ⅥA	2	
		日本文学文化演習ⅥB	2	
		日本文学文化演習ⅦA	2	
		日本文学文化演習ⅦB	2	
		日本文学文化演習ⅧA	2	

		日本文学文化演習ⅧB	2	
		日本語学特論ⅠA	2	
		日本語学特論ⅠB	2	
		日本語学演習ⅠA	2	
		日本語学演習ⅠB	2	
		日本語学演習ⅡA	2	
		日本語学演習ⅡB	2	
		比較文学A	2	
		比較文学B	2	
		中国文学特論A	2	
		中国文学特論B	2	
合計	24単位	—	—	

文学研究科中国哲学専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（国語）・中学校教諭専修免許状（国語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	中国文学特論ⅠA	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		中国文学特論ⅠB	2	
		中国文学特論ⅡA	2	
		中国文学特論ⅡB	2	
		中国文学特論ⅢA	2	
		中国文学特論ⅢB	2	
		中国文学演習ⅠA	2	
		中国文学演習ⅠB	2	
		中国語学研究ⅠA	2	
		中国語学研究ⅠB	2	
		中国語学研究ⅡA	2	
		中国語学研究ⅡB	2	
		文献研究（東洋）A	2	
		文献研究（東洋）B	2	
合計	24単位	—	—	

文学研究科英文学専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（英語）・中学校教諭専修免許状（英語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	英文学特論ⅠA	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		英文学特論ⅠB	2	
		英文学演習ⅠA	2	
		英文学演習ⅠB	2	
		英文学演習ⅡA	2	
		英文学演習ⅡB	2	
		米文学特論A	2	
		米文学特論B	2	
		米文学演習A	2	
		米文学演習B	2	

		英語学特論 I A	2	
		英語学特論 I B	2	
		英語学特論 II A	2	
		英語学特論 II B	2	
		英語学特論 III A	2	
		英語学特論 III B	2	
		英語学演習 A	2	
		英語学演習 B	2	
		英文学思想 A	2	
		英文学思想 B	2	
		米文学思想 A	2	
		米文学思想 B	2	
合計	24単位	—	—	

文学研究科史学専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（地理歴史）・中学校教諭専修免許状（社会）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	日本史学特論 I A	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		日本史学特論 I B	2	
		日本史学特論 II A	2	
		日本史学特論 II B	2	
		日本史学特論 III A	2	
		日本史学特論 III B	2	
		日本史学特論 IV A	2	
		日本史学特論 IV B	2	
		日本史学特論 V A	2	
		日本史学特論 V B	2	
		日本史学演習 I A	2	
		日本史学演習 I B	2	
		日本史学演習 II A	2	
		日本史学演習 II B	2	
		日本史学演習 III A	2	
		日本史学演習 III B	2	
		日本史学演習 IV A	2	
		日本史学演習 IV B	2	
		日本史学演習 V A	2	
		日本史学演習 V B	2	
		東洋史学特論 I A	2	
		東洋史学特論 I B	2	
		東洋史学特論 II A	2	
		東洋史学特論 II B	2	
		東洋史学演習 I A	2	
		東洋史学演習 I B	2	
		東洋史学演習 II A	2	
東洋史学演習 II B	2			
西洋史学特論 II A	2			

		西洋史学特論ⅡB	2	
		西洋史学特論ⅢA	2	
		西洋史学特論ⅢB	2	
		西洋史学特論ⅣA	2	
		西洋史学特論ⅣB	2	
		西洋史学演習ⅡA	2	
		西洋史学演習ⅡB	2	
		西洋史学演習ⅢA	2	
		西洋史学演習ⅢB	2	
		西洋史学演習ⅣA	2	
		西洋史学演習ⅣB	2	
		文献研究(日本)A	2	
		文献研究(日本)B	2	
		文献研究(東洋)A	2	
		文献研究(東洋)B	2	
		文献研究(西洋)A	2	
		文献研究(西洋)B	2	
合計	24単位	—	—	

文学研究科教育学専攻 博士前期課程
 高等学校教諭専修免許状(地理歴史・公民)・中学校教諭専修免許状(社会)

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	学校教育研究特殊講義A	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみ資格科目として認定される。
		学校教育研究特殊講義B	2	
		教育学説史研究特殊講義A	2	
		教育学説史研究特殊講義B	2	
		学校教育研究演習A	2	
		学校教育研究演習B	2	
		比較教育史演習A	2	
		比較教育史演習B	2	
		教育学説研究特殊講義A	2	
		教育学説研究特殊講義B	2	
		学習指導論特殊講義A	2	
		学習指導論特殊講義B	2	
		教育学説研究演習A	2	
		教育学説研究演習B	2	
		生徒指導・進路指導特殊講義	2	
		心理査定法特殊講義A	2	
		心理査定法特殊講義B	2	
		心理発達学特殊講義A	2	
心理発達学特殊講義B	2			
合計	24単位	—	—	

特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
特別支援教育領域に関	24単位	特別支援教育研究特殊講義A	2	同一科目を

する科目		特別支援教育研究特殊講義B	2	複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみの資格科目として認定される。
		特別支援教育研究演習A	2	
		特別支援教育研究演習B	2	
		臨床教育心理学特殊講義A	2	
		臨床教育心理学特殊講義B	2	
		臨床教育心理学研究演習A	2	
		臨床教育心理学研究演習B	2	
		障害児臨床心理研究特殊講義A	2	
		障害児臨床心理研究特殊講義B	2	
		カウンセリング実習	2	
		臨床教育心理治療法特殊講義	2	
		学習心理学特殊講義A	2	
		学習心理学特殊講義B	2	
		障害児心理研究演習A	2	
		障害児心理研究演習B	2	
合計	24単位	—	—	

小学校教諭専修免許状

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	学習指導論研究演習A	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみの資格科目として認定される。
		学習指導論研究演習B	2	
		教育行財政学特殊講義A	2	
		教育行財政学特殊講義B	2	
		授業分析論特殊講義	2	
		音楽科教育研究演習	2	
		図画工作・美術科教育研究演習	2	
		社会科教育研究演習	2	
		比較教育史特殊講義	2	
		環境教育論特殊講義	2	
		理科教育研究演習	2	
		国語科教育研究演習	2	
		算数・数学科教育特殊講義	2	
		算数・数学科教育研究演習	2	
		教育心理学特殊講義	2	
教育相談学特殊講義	2			
合計	24単位	—	—	

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士前期課程

高等学校教諭専修免許状（英語）・中学校教諭専修免許状（英語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	科目名	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	24単位	言語コミュニケーション演習ⅠA	2	同一科目を複数回履修・修得した場合、初回に修得した単位のみの資格
		言語コミュニケーション演習ⅠB	2	
		言語コミュニケーション演習ⅡA	2	
		言語コミュニケーション演習ⅡB	2	
		言語コミュニケーション演習ⅢA	2	
		言語コミュニケーション演習ⅢB	2	

		言語コミュニケーション演習ⅤA	2	科目として 認定される。	
		言語コミュニケーション演習ⅤB	2		
		言語コミュニケーション研究ⅠA	2		
		言語コミュニケーション研究ⅠB	2		
		言語コミュニケーション研究ⅡA	2		
		言語コミュニケーション研究ⅡB	2		
		言語コミュニケーション研究ⅢA	2		
		言語コミュニケーション研究ⅢB	2		
		言語コミュニケーション研究ⅣA	2		
		言語コミュニケーション研究ⅣB	2		
		国際文化研究ⅠA	2		
		国際文化研究ⅠB	2		
合計	24単位	—	—		